

生竹矢止めの荒神さん（矢送り伝説）（生竹）

生竹集落の南東、小鴨川の左岸に突出した「小丸山」に小さい祠があり、
「矢止めの荒神」と称し、種々の伝説がある。

矢送神社の由緒によると、12
代景行天皇の皇子 日本武尊が、
西国平定の途中に伯耆に足を入
れられ、矢筈山より東北に向っ
て矢を放たれ「この矢の落下し
たところが、我が守護の地であ
る」と言われた。

その東北にある久米郡の生
竹（耳）に矢が落止した。

その所に荒神宮の小さい祠が
あり、今に至るも「矢止め荒神」
と称す。その矢をかの山（矢
筈山）へ送り戻したことで、こ
の地方を「矢送り」と名付けた
とか。矢を櫃に入れて永遠に保
存したことで、この地を「矢櫃」
と称す。



もう1本の矢を南に向って放たれたところ、およそ一里の地に落止した。
この地が、岩滝大明神が鎮座される美作と伯耆の境のところで「これより
南は美作国の領地である」と、その矢を納め給われた。ここを以って「弓
狭峠」といい、転化して犬狭峠になったという。

（出典：関金町誌）

（注）

岩滝大明神：矢送り神社の末社